

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2394100099		
法人名	株式会社エシイ		
事業所名	グループホーム百の木東海 こもれびユニット		
所在地	東海市中央町二丁目329番地		
自己評価作成日	平成29年11月 1日	評価結果市町村受理日	平成30年 1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2394100099-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2394100099-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年12月 4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者の方が、自由に楽しく、健康に生活できるように支援しています。一緒に料理を作ったり、洗濯を干したり、畳んだり、掃除もします。毎日、散歩し、月に1回外食に出かけ、時に喫茶店などに出向くことで、社会と交流を持つようになっています。  
お風呂も、毎日入っていただけるように用意し、一人ずつお湯の入れ替えをしています。笑顔いっぱい、明るく楽しい毎日を送っていただけるように努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者が今ある力を発揮して一日1回でも笑顔を見せてくれる支援をしようと職員は真剣に取り組んでいる。利用者との接する時間を増やして今より個別性の高い支援に取り組むために業務内容を見直し、半年以上の話し合いを重ねて業務マニュアルを完成させている。利用者との話す時間が多くなったことで、今まで見えなかった利用者の新たな一面を発見し支援につなげている。  
毎月の回転寿司への外食や抹茶を点てるお茶会は継続しており、利用者の大きな楽しみとなっている。また、近所の喫茶店でケーキやお茶を楽しんだり、弁当を頼んだりしているがオーナーの厚意で送迎がされている。公園での花見が車のトラブルで行けなくなった時も送迎を買って出るなど嬉しい出来事もあった。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆が理念を把握できるように、スタッフルーム掲示しており、常に目にし、それを意識するようにしている。	理念について職員会議や日々の申し送り時など機会がある度に伝えている。職員は笑顔と優しさで利用者の今ある力を最大限に発揮できる支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩時に畑作業をしている方に挨拶や話をしている。たまに採れた野菜や花を頂くこともある。	喫茶店の送迎の厚意を受けたり、町内会長から地域情報を得て行事に参加をしている。近隣の駅に飾るアート作品の手伝いをし、駅の階段に利用者が切り取った貼り絵が展示された。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の青年会議所主催のオレンジフェスティバルに使用する飾り付けフラッグを、入居者と一緒に作ることに協力し、当日は、スタッフ2名が認知症を理解していただけるクイズの手伝いを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し行事報告や入居者の情報を伝えている。また、町内会長や高齢者相談支援センター、ご家族から、様々な情報を得ることが出来、サービスの提供に活かしている。	年6回、行政や町内会長、家族や利用者が参加している。ホームの活動報告の他、町内会長から地域行事の情報提供や行政からのお知らせ、家族の談話を行っている。また、出た意見を参考に取り組みをしている。	目標達成計画の進捗を運営推進会議内で行なうことを望む。参加者の意見を取り入れ目標が達成されることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	最近市町村担当との関わりはありません。	市主催の福祉フェスティバルの飾り付けを利用者と一緒に作り、当日は職員が手伝いをしている。市のグループホーム連絡協議会に定期的に出席をし、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルがありそれに従い実施している。 日中は玄関の施錠はしておらず、自主散歩を希望されればスタッフ同行で散歩していただいている。	朝の申し送り時に身体拘束や虐待について振り返りを行っている。また、スピーチロックはその都度注意をしている。ヒヤリハットの検討会を行い、意識向上を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	最近、虐待防止関連について学ぶ機会はないが、あってはいけないこととスタッフ一人ひとり認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は司法書士による講習会があり、学び、活用してきたが、最近は学ぶ機会はない。また、現在、制度を利用している入居者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は社長代理と施設長が行っており、十分な説明を行い、理解していただいていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの意見要望はなかなか聞くことは困難で、日々の会話の中から汲み取るようにしている。また、家族からは、面会時などに伺っている。それらの意見要望は、連絡ノートを活用し情報を共有し話し合いを行い改善に努めている。	家族来訪時や電話で家族から意見を聞き取っている。伝達ミスのないように回覧シートを作成して情報共有をしている。家族会では食事を共にするなど利用者の様子を伝えている。	利用者のホームでの日頃の様子や外出レクなど、実現していることを家族にアピールする取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行い意見を出し合っている。職員会議はあるがほとんど伝達事項のみで終わっている。	半年以上の時間をかけて業務マニュアルを作成している。作成に当たり、一つ一つの支援方法や時間の使い方などについて検討し、改善を重ねて完成させている。処遇改善のために個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者の認知症状が進み、ケアが大変になってきており、職員の肉体的、精神的負担が大きくなってきている。また、職員個々の勤務状況を代表者は把握しておらず、やりがいや向上心を持って働ける職場環境づくりをしているとは言い難い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者が把握しているとは思えず、代わりに管理者が把握している。研修を受ける機会が少なくなってきたように思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者に代わり管理者がグループホーム連絡会に参加し情報交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、ご家族から出来るだけ多くの情報を得るようにし、スタッフ間で共有し本人が不安なく暮らしていけるように努めている。また、入居後は日常的に傾聴し不安を取り除けるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを伺い、時間をかけながら信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご家族の思いを聞き取り、入居後本人の『できること』『できない事』を把握することに努め適切なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	友人同士のようなコミュニケーションを図り、会話を楽しみ笑いを共有している。一緒に食事を作ったり、洗濯や掃除をしたり、また、一緒に散歩したり、同じ食事やおやつを食べ、おしゃべりを楽しむなど、常に生活の様々な場面と一緒に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月に1度届けている百の木だよりにて近況をお伝えし、必要時にご家族に協力をお願いすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みや入居前の状況を把握し、会話の中にそれを取り込んでいる。ご家族の協力により馴染みの場所へ出かけたり、馴染みの人に会いに行ったりしている。	50年来の友人との買い物、近所の友人宅への訪問、美容院や神社の参拝、家族と旅行へ行くなど、馴染みの関係継続を支援している。また、毎月の回転寿司への外食などはホームを拠点とした馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を把握し、家事作業やレク等の組み合わせを考え、仲良く過ごせるように配慮している。仲間に入れずにいる方には話を振り、同じ会話で楽しめるように配慮し、皆で笑って過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、ご家族に了承を得、転居先に面会に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から思いや希望を伺うようにしている。それを言葉にできない方は、日常の言動から汲み取るようにしている。	業務マニュアル作成によって、利用者との個別の時間が増えている。利用者との会話に時間を費やしたことで、利用者についての新たな発見をしている。掴み取った情報は職員間で共有して支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にある程度の聞き取りを行っている。入居後は本人に伺ったり、会話から意識し把握することに努めている。不足する分はご家族から伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を生活記録に細かに記録し、毎朝の申し送り時に情報を共有し、現状を把握することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度ケア会議を行い、その時の課題を話し合い、ケアプランの見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。時にご家族との話し合いの場も設けている。	毎月のアセスメント、3ヶ月毎にモニタリングと介護計画の見直しをしている。本人や家族の思いや意向を介護計画に反映させ、チェック表を使い毎日実施状況を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を生活記録に細かに記録し、職員間で情報を共有している。当施設独自のケアプランチェック表を活用し、ケアの実践や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、変化があるのでその都度一番良いと思われる対応を行っている。必要に応じて、ご家族に協力していただくこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にお話ボラの方が来てくださる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回提携医の往診がある。専門医の受診は家族対応で行っており、必要に応じて、医療機関宛に文書にて状態を伝えている。また、必要に応じ受診に同行することもある。	希望するかかりつけ医とホーム協力医のサポート体制を説明し、利用者や家族が選択をしている。ホーム協力医以外の受診は家族対応だが、必要に応じてホーム対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が来ており、スタッフからの気づきなどを独自の『お伝えシート』に記し情報を提供している。看護師とは24時間電話対応できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前より受診時に文書にて状態を伝えており、入院時にはお見舞いを兼ねて様子を伺い、情報交換を行っている。退院時にはカンファレンスに出席し、退院後安心して生活できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、早い段階でご家族と話し合いを行っている。	入居時に重度化や終末期についてホームの方針を家族等に説明をしている。日頃から家族等に利用者の状態を伝え情報共有をして、その都度意向を確認している。医師や看護師と連携し、適切な移行先を探す等の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあるが訓練は行われていない。全ての職員が実践力を見に付けているとは言い難いが、その時のスタッフは急変時の対応は出来た。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間と別々に想定した訓練を消防士の指導により行っている。	避難訓練を規定通りに行ない消防の指導を受けている。実際の避難や水消火器を使った訓練などを行っている。市役所が近くにあることから備蓄は3日分を揃えている。	地域と連携するための取り組みに期待したい。また、救命救急講習の受講など職員のスキルアップが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れや親しみから、時に忘れがちとなるが、人生の先輩として尊重し、言葉かけや対応に注意を払うようにしている。	利用者の気持ちを制限しないように声掛けなどを工夫している。名前の呼び方は利用者が心地よく感じる呼び方にしている。入室時のノックなど基本的なマナーを忘れないように気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取り、思いを聞き取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての希望にそうことは困難だが、できるだけその人の思いを尊重するようにしているが、業務優先になってしまう事が多々ある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選ぶことが困難な方は、服と一緒に用意したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりや、片付けなどは常に一緒に行っている。一人ひとりの力量に応じ、皆が参加できるようにしている。	利用者の嗜好を反映したメニューを考え、利用者と一緒に買い物に行き、調理をしている。手伝いたい利用者が多く、公平に役割分担をしている。日曜の朝を喫茶メニューにしたり、食後の珈琲を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックしている。水分を摂ることを極端に嫌う方には、好みの物を提供したり、じゃんけんをして飲んでもらったりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをおこなっている。必要に応じて介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗を減らすように、個々の排泄のパターンを把握し、定時刻にトイレの声掛けを行う等、個々の状態に合わせた適切な対応を行っている。状態の変化があった都度どのような対応が一番良いか皆で話し合い、速やかな対応を行っている。	利用者に合わせた声掛けや定時誘導をして失敗を減らしている。夜間のみポータブルトイレの利用者に対して支援の結果、改善がみられ撤去を考慮するなど適宜話し合いを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、毎朝バナナヨーグルトを提供している。必要に応じてオリゴ糖も提供している。野菜をたくさん取り入れた食事を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を希望される方はいない。むしろ拒否される方のほうが多く、どのようにしたら入浴していただけるかに苦慮している。拒否された方が入浴された後「気持ちよかった。」と言われる事が多い。	週3回ほど湯やマットを一人ずつ入れ替えて入浴をしている。声掛けで入浴を促し、湯温や入浴時間の好みを聞き対応をしている。家族の協力があり拒否のある利用者も納得して入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に部屋で休んでいただいている。夜間、休む時間も、その方のリズムにあわせ、入床、起床していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の健康ファイルがあり、薬の用法等が書かれたものがファイルされており、いつでも見られるようになっている。服薬の変更等があった場合は、連絡ノートに記され皆が分かるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、趣味、好み等を把握し、これまでやってこられたことをやっていただけるように、それにあわせて段取りを行い、楽しんでやっていただけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員が希望しているとは言い難いが、毎日、近所を散歩している。全員ではないが、買い物に同行していただいている。ご家族と外出される方も多くいる。	日課の散歩や畑の収穫、外気浴など日常的に外に出る機会を作っている。ほぼ毎月の回転寿司やショッピングセンターへの買い物、レストランへ外食に出掛けている。桜の時期は公園で花見弁当、夏は花火大会を庭から楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を本人が持つ事は無い。 お金を使う支援が出来るようにしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望される時は、必要に応じ電話しているが、本人自らかけることは困難な為、スタッフが代わりにダイヤルしている。手紙が来る方がみえるが、返事を書くことの支援は行われていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、毎朝入居者と一緒に掃除を行い清潔にしている。壁面には1本の大きな木に、季節の移り変わりに合わせた飾り付けを皆で作し、飾っている。	リビングの壁面に利用者と共に作った季節の飾り付けをしている。居室前には利用者をイメージした職員手作りのネームプレートを取り付けている。ダイニングの席は特に指定はせずに、好きな場所に座っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや玄関にソファがあり、皆で一緒に過ごしたり、お一人で自由な時間を過ごしたりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や雑貨などを持ってきていただいている。仏壇を持って来られている方も。	好きな歌手のブロマイドや家族の写真を壁に張ったり、作った小物を飾っている。仏壇や法典、テレビや長年使っている置時計などを持ち込み、利用者の個性を活かした居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、倉庫等分りやすいように表札を掲げていた。編み物、塗り絵など自分がやっていたものが分かるように置かれ、やりたい時にやれるようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394100099		
法人名	株式会社エシイ		
事業所名	グループホーム百の木東海 ひだまりユニット		
所在地	東海市中央町二丁目329番地		
自己評価作成日	平成29年11月 1日	評価結果市町村受理日	平成30年 1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2394100099-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2394100099-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年12月 4日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝散歩し、おやつ後は体操。手作りおやつや市販のお菓子も活用。季節ごとにイベントを楽しみ個々にバースデーをお祝い(好みの食事、その方を選んでプレゼント)笑顔が絶えない。毎日本人の持てる力を活かし楽しい毎日を送っていただく。そのためにも一人ひとりの思いを大切に、寄り添ったケアをしています。業務をこなすことに振り回されず、一緒に掃除、一緒に食事作り、一緒に片付けと心が伝わる支援をしていきたいと思っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目のつきやすいところに掲示し、職員も理念を意識しケアにあたっている。管理者は理念をもとに職員の指導をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝、散歩時に挨拶をし、時に野菜や花を頂いている。運営推進会議に町内会長が参加されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年9月駅前で開催されたオレンジフェスティバルがあり(青年商工会議所主催)飾り付け用三角フラッグは利用者も手伝って作り、当日は職員2名出席し事業所ブースにて認知症クイズに協力。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動や入居者情報報告を行っている。その内容を職員に回覧している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者相談支援センターより入居者の紹介があり入居に繋がっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束によるデメリットを理解し、外に行かれる入居者を止めず、職員同行しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に至る原因が見逃されないよう気をつける。言葉かけに問題があるときがあり、注意し合いたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は制度を利用する入居者がみえ勉強していたが、最近必要とするケースが無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現在、社長代理の説明にて契約を行っています。入居後も疑問があれば言い出しやすいよう関係作りをしていきたい。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情の受付案内を掲示し、ご意見箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を言えるが、反映されていないと思います。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間の希望を聞いてもらえるが、給与についての不満が解消されていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	スタッフ研修として市内のグループホームで交換実習を行ったが、継続を考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一緒に家事をしながら聞き取り、本人のことをよく知り、良い関係を作って行きたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の情報に加えて、面会時に話をして信頼関係を築ようとしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、必要としている支援の情報を収集している。他のサービスについても勉強したい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意としていることを職員と一緒にいき、教えていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	百の木だよりに入居者の最近の様子を記入し、お知らせし、面会時は相談させていただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が訪れやすい環境を作って行きたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話と一緒に入り、トラブルを未然に防ぎ楽しくおしゃべりできるよう気配りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、他の施設に入られた方は家族の了解を得て、面会に行ってます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを早めに聞き取りしているが、困難な時は、個別対応時にくみ取るようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	早めに入居者や家族から生活歴を聞き取り把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	得意なこと趣味等を知り、少しでも継続していただけるよう職員が記録をして情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議時にケア会議を行っている。時に申し送り時にも行い、必要時ケアプランの見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを共有する為記録し、ケアプランチェック表を使って実践状況を知りケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対して早めに対応する為毎日の申し送りの時間を使って話し合う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源について勉強が足りない。 現在、傾聴ボランティアの方がみえます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、近くの先生が往診にみえ、入居者の持病の内服薬処方や特定健診やインフルエンザの予防接種などしてもらっています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問で協力医と連携し健康管理をしていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	開設して長くなり病院相談員との情報交換がスムーズにできています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来ることを具体的に書面にし本人や家族と話し合いたいと思います。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの用意はありますが、施設内で応急処置や救急車要請の判断の仕方を勉強したいと思っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を繰り返し行っているが避難場所までの訓練も気候の良い時に予定したい。 消火器の使い方は入居者も一緒に消防署員に教えてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い、接していますが、親しくなるあまり言葉かけに心配りが足りない時があります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の大切さを職員が理解し、対応しているが、自己決定が難しい入居者には選択する方法で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなく入居者のペースで生活していただく。その為にも個別対応の時間を作る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを把握する。特に外出時、身だしなみに気をつける。月1回の訪問理美容を活用する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に準備、食事、片付けを行い、行事のメニュー等取り入れ楽しんで頂く。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による4ヶ月に1回の栄養指導を受けています。(実際に食べていただいている。)入居者の食べている量や水分量のチェックもしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは継続しています。上手に磨けない入居者には介助するようにし、歯石除去のために訪問歯科も活用している方もみえます。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツを続けていただきたいので、失禁＝リハパンではなく色々に対応を試みています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、散歩、水分補給、毎朝のバナナヨーグルト、オリゴ糖の使用でも便秘が改善されないかたには、薬の使用も考えています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ずつお湯を替えて入っていただいています。希望があつて毎日入浴される方にも対応しています。拒否のある方は、現在、家族に協力していただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や加湿等も考え、快適な環境で休んでいただいています。 お昼寝が長時間にならないよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用量等は薬ケースに表記しています。服薬による変化に気をつけ様子を見えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、家事、歌、習字、塗り絵、などを楽しんでいただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月1回の外食や毎日の散歩を継続し、時々喫茶店へ行くレクも計画しています。 個別の外出については、家族に協力をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の所持は出来ていません。 (入居者同士の貸し借りがあったり、紛失等により混乱が生じた為。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話は取り次いでいます。ハガキ、手紙等、返事を書いてもらって郵送する支援はしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝入居者も一緒に掃除を行い、居心地良く過ごしていただいています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	とりたてて工夫はしていないが、自然にお互いの居室訪問をしたり、玄関のイスに座っていたりされます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの家具の持込をお勧めしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、倉庫、トイレ等に表札をかけ分かりやすくしています。夜間のトイレ時、廊下の手すりを活用している入居者もみえます。		